

NEWSLETTER

OCT. 2026

ISSUES #17

当社の旬な話題をご紹介します
大気社ニュースレター
発行元：株式会社大気社 経営企画部
広報・サステナビリティ推進課
連絡先：mailmast@taikisha.co.jp

一冊で見える、 大気社の 「いま」と「これから」

■ 気になるところから読む、大気社の統合報告書



Introduction

「統合報告書」と聞くと、少し堅く、専門的な資料という印象を持つ方もいるかもしれません。ですが、その中には「大気社は何をしている会社なのか」「どんな強みを持ち、これからどこへ向かうのか」といった、会社を知るための情報が詰まっています。

「統合報告書2026」は、事業、技術、人材、環境への取り組み、未来に向けた変革をまとめた一冊です。今回は100ページを超える内容から、初めて読む方にもおすすめのポイントをご紹介します。

そもそも、統合報告書って何？

統合報告書は、売上や利益などの「財務情報」と、人材、技術、環境、ガバナンスなどの「非財務情報」をつなぎ、企業がどのように価値を生み出し、将来に向けて成長していくのかを伝えるレポートです。大気社の「統合報告書2026」では、2025年に策定した「10年プラン2035」と、新たなパーパス・ビジョン・バリューズを軸に、経済的価値の倍増と社会的価値の増大を目指す取り組み、そして、いま起きている「変革の兆し」を紹介しています。

まずは「どんな会社？」から

冒頭には、事業内容や海外での事業展開、113年にわたる歩みなど、大気社を知るためのページがあります。

大気社は、産業空調・ビル空調を担う環境システム事業と、自動車などの塗装工場を支える塗装システム事業を二つの柱として事業を展開しています。半導体や医薬品の製造環境、データセンター、オフィスや病院など、暮らしや産業を支える場所に、大気社の技術が生かされています。そのフィールドは日本だけではありません。施工実績は50を超える国・地域に広がり、2025年度の海外売上高比率は50.4%に達しています。世界各地に広がる拠点、グループ会社のネットワークも大きな強みです。

最初から順番に読む必要はありません。気になる事業、技術、人のページから、大気社の「いま」と「これから」に触れてみてはいかがでしょうか。

大気社の変革が、動き始めています

人と知をつなぎ、お客さまへの提供価値を高め、新たな事業を育てる

「10年プラン2035」の実現に向けて、大気社ではさまざまな取り組みを進めています。「統合報告書2026」の特集・トピックスから、変革の兆しが見える3つのテーマをご紹介します。

① 国や組織を越えて、人と知をつなぐ



国内外の社員がともに学ぶグローバル研修を通じて、将来の経営を担う人材を育成。国や組織を越えた連携を進めています。

また、技術力の向上と共有に向けた別の取り組みとして、2026年6月には、タイの大規模データセンタープロジェクトで技術交流を実施。日本を含む7か国から集まったメンバーたちが、設計・施工、品質管理に関する知見を共有しました。各拠点の知識・技術を共有・活用することも、グループ全体の競争力を高めています。

▶▶詳しくは「グローバル成長を見据えた人的資本の増強へ」(P.71-72)

② 設計から引き渡しまで、お客さまに伴走する

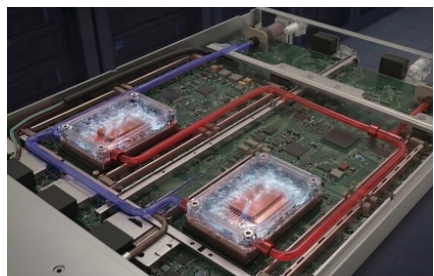


設計・提案から施工、引き渡し後の保守・運用まで一貫してお客さまを支える考え方が「Design, Build & Care」です。フランスの香料メーカー・MANE社のインドネシア工場は、その実現に向けた第一歩となるプロジェクトです。

第1工場での実績が評価され、その信頼をもとに第2工場は特命で受注。設計と施工が一体となり、短工期や仕様変更にも柔軟に対応しました。将来の設備増設への対応や保守・点検のしやすさも設計段階から考慮し、お客さまの事業を長期的に支える提案につなげています。

▶▶詳しくは「Design, Build & Careの追求」(P.59-60)

③ 技術とアイデアを、新たな事業へ育てる



2相式液冷システムの中核機器の一つである
コールドプレート（イメージ）

2024年に発足した事業開発本部は、企画・研究開発から営業、事業化の推進までを一貫して担います。2026年1月には、アイデアを段階的に検証して事業化へ育てる、事業創出プロセスのフレームワーク「CI-フレーム（Creation and Innovation Framework）」の運用を開始しました。この取り組みの一例が、液体を用いてデータセンター内のサーバーを冷却する液冷ソリューションです。サーバーの発熱量が増加し、冷却に要するエネルギーの抑制と安定稼働の両立が課題となる中、大気社はパートナー企業とともに、冷却設備を含むシステム全体の検証を開始し、設計段階から省エネルギーと安定稼働に配慮した提案を目指しています。

▶▶詳しくは「新事業開発への挑戦」(P.77-78)

サステナビリティ担当役員に聞く 「気になるページから、大気社の未来に触れてください」

—今回の統合報告書を通じて、読者の皆さまにどのようなことを伝えたいとお考えですか。

今回の統合報告書では、人材の育成や拠点間の連携、お客さまへの提案、新事業の開発などを通じて、将来に向けて変革を進める大気社の姿をお伝えしたいと考えています。

社員の声や具体的な事例から、私たちの仕事が生み出す社会にどのような価値を生み、それが今後の成長にどうつながっていくのかを感じていただければ幸いです。ぜひ、気になるページから読み進め、大気社の「いま」と「これから」に触れてください。



松田 吉弘

取締役常務執行役員
経営企画本部長
兼サステナビリティ推進担当